

岡山朝日高校同窓会 朝日 会報



知っていますか？ 自分世代の前と後

「立体リボン」が席卷、今や手結び0%

本校で教鞭を執られたこともある藤井美枝子氏が現在の女子制服をデザインされたとき、ネクタイの結び方に「着こなしの余地」を託された。かつて昭和50年代、ネクタイを小さく結ぶのが流行った（写真右）。ネクタイの長さは変わらないから、結び目の位置は下がり、垂らした紐状の部分の方がより目立つ。しかしそれは「手結び」が当たり前だった時代の話、現在手で結んでいる生徒はまずいない。平成14年頃、岡山駅西口の店舗で結び目が固定された立体リボンが「朝日高のリボン」と称して販売されるようになったらしい。これを平成16年に購買でも販売を開始した。市販品はゴム紐で首にかけるタイプだったが、購買のものは両襟脇にスナップボタンで留める方式を採用、後に生地も改良された結果、急速に普及して平成19年のうちに着用率は9割に達した。現在はほぼ全員がこれを着用している（写真左）。

うまく結べない、結ぶ時間が惜しいということで普及したが、当然のことながら結び方は全員一緒となった。藤井氏は空の上でどのように見ておられるだろうか。



現在



昭和54年卒生

角帽で富士登山も当然だった でも 今や着用率ほぼ0%

間違いなく角帽は現在も朝日男子の制帽であり、シンボルである。かつては男子入学者全員が購入していたが、着用者の減少で平成6年度新入生からは希望者のみの購入となった。近年の販売数は20～30個程度となっている。

かつては富士登山にすら迷うことなく着用（写真）していたが、今や毎日被って登校する生徒は数年に1～2名程度である。



昭和53年度の富士登山（昭和56年卒生）